



秋 剣 連

発行

秋田県剣道連盟

〒011-0945

秋田市土崎港西5丁目11-10

TEL 018-838-1783

FAX 018-845-3255

http://akitakenren.com/



秋田県剣道連盟の今後の取り組みについて

秋田県剣道連盟 会長 小松 誠



(一) 令和五年
(二〇二三年)は
世界的な異常
気象で、秋田県
も例外ではあ
りませんでした。
秋田県にお

いては、特に七月の秋田市・五城目町での大水害があり、剣道関係者にも被災者が出ました。また、水害に引き続き真夏日と猛暑日が長く襲い、剣道の諸行事が中止・延期に追い込まれました。その後、熊の出没が二か月以上も続き、人的被害が出ております。

被災、被害に遭われました方々には心よりお見舞い申し上げます。

(二) さて、秋田県剣道連盟の今後の取り組みと致しましては、次の二点が課題となります。

① 剣道人口の減少にどう対処するか。

② ①に伴う強化としての捉え方

①としては、全国的に人口が減少しており、どの都道府県も状況は同じであります。全国の高校生の剣道人口を例にとりますと、

昭和五十九年(一九八四年)

九五、〇七一人 (最高)

令和三年(二〇二一年)

三一、四二三人 (最低)

三十八年間で六三、六四九人の減であります。

ちなみに、秋田県の人口は約

九十二万人(令和四年)で三十八番目、高校の剣道人口は二九一人(令和四年)の全国三十八番目で大体人口に比例しているようです。

ところが、九州の佐賀県は秋田県より人口が約十万人少ないのですが、高校の剣道人口は五〇二人(令和四年)の全国二十七番目と大きな差があります。

この差はどこからくるのでしょうか？一つの参考例として捉えていきたいと思います。

現在、活性化委員会を中心に幼年や中学生の講習会等を開催しております。今後はこれを基盤に、もっと幅広く若い指導者の方々からもご意見を伺って方策を考えていきたいと思っています。

(三) ②については、強化の傾向としては「遠征に行くことが強化」と考えがちであります。しかし基本は自分の道場であり学校です。幼少年、中学生を要とし、それぞれの部門で強化しつつ、「幼少年と中学生」「中学生と高校生」「高校生と大学生・一般」といった合同の強化も必要ではないでしょうか。

最後に最近福井県の力が向上しております。お話を聞きますと、大会後には合同稽古を行っているとの事でした。大会後の稽古も強化の一貫であります。どうぞ各部門でもお考えいただきたいと思います。

東北総体・鹿児島国体
を終えて

総監督 理事長

木浪 恒二

「2023 燃ゆる感動 かごしま

国体 剣道競技」が鹿児島県霧島市、霧島市牧園アリーナにおいて令和5年10月8日～10日の3日間を会期に開催されました。この大会は令和2年に開催される予定であった第75回国民体育大会が新型コロナウイルス感染症の影響によって開催できなかったことから、特別国民体育大会として今年開催されることになった大会です。

今年の国体は少年男女、成年男女、計4種別が本国体への出場を果たしフルエントリーとなりました。これは少年男女が2県の出場枠（以前は3県）となった平成20年以降、初の快挙です。

国体の予選となる東北総合体育大会（ミニ国体）での本県各チームの見事な戦い振りを振り返ってみたいと

思います。

今年の東北総体剣道競技は8月19日、岩手県二戸市総合体育館で開催されました。試合を観戦している我々も息苦しくなるほど蒸し暑い体育館の中で、少年男女と成年女子は6県による総当たり戦。成年男子は3県リーグ戦後にリーグ1位県同士による決勝戦方式で行われました。

少年男子は、大会前の評判は高かったものの、初戦で宮城県に代表戦で敗れる苦しいスタートとなりました。しかし、2戦目以降、徐々に本来の力を発揮して4連勝し、4勝1敗の第1位で東北予選を通過しました。

少年女子は初戦から4戦目まで安定した戦い振りで連勝し、2位以上が決定、国体の出場権を獲得しました。最終戦では3年後に地元国体を控えた強化の進む青森県と優勝をかけての戦いとなりました。この試合は大接戦となりましたが僅差で敗れ、2位で国体出場となりました。

成年女子は稀に見る混戦となりました。5試合中2試合が代表決定戦という接戦につぐ接戦でしたが、最終戦

で青森県に敗れ、国体出場を逃したかに思われました。しかし、集計の結果、青森県、岩手県、秋田県の3県が勝数で並んだものの、本県は勝者数で他県を1点上回り第2位。平成26年長崎国体以来10年ぶりとなる国体出場を果たしました。

成年男子は各県とも国体には出場できませんが、東北優勝を目標に掲げて大会に臨みました。予選3県リーグは安定した試合で1位通過し、宮城県との決勝戦では中堅、畠山が見事な2本勝ち、副将が敗れ、大将戦となりました。試合は辻選手が試合終了間際に見事な諸手突きを決め優勝することができました。この結果、本県は総合の部でも2位以下に大差をつけての優勝を飾ることができました。

強化練習を重ねて迎えた鹿児島国体でしたが、少年女子は1対2で長崎県、少年男子は1対1で島根県に本数負け、成年女子は0対3で埼玉県にそれぞれ初戦で敗れ、成年男子も2対3で京都府に敗れるという結果に終わりました。内容は僅差であったものの、勝負所であと一本が取れない勝負

の厳しさを味わいました。今後は打突力も含めてもう一度基本から見直す必要があります。ただ、成年男子の京都府戦で、副将山田選手と大将辻選手が見事な勝利で大会を締めくくってくれたことは、我々にとつて大きな自信になると共に、来年に向けた発憤興起の念を与えてくれました。

御指導、応援いただいた皆様に感謝しながら大会報告とさせていただきます。



少子化対策の現状と課題



活性化対策委員会
委員長 柏木 幹夫

〇これまでの取組状況

秋田県剣道連盟では、急激な県内剣道人口の減少を危惧し、平成21年度に『少子化対策委員会』を設置、課題の検討と実施可能な対応策を模索しながら実施してきた。

第一回少子化対策委員会は、平成21年6月28日、県立武道館会議室において目黒大作・岸野直彦・高橋英夫・石井実・木浪恒二の出席で開催されている。ここでは、『秋田県剣道は少子化という厚い壁の前で存亡の危機に瀕している。』剣道は世界に冠たる伝統的運動文化であり、我々にはこれを正しく次の世代に伝承する責務がある。』との基本認識のもと真摯な議論が行われ、以下の具体的対応策がまとめられた。

①県連盟のホームページの活用。②募集ボスターの作製・配布。③剣道をPRするためマスコミ等の活用。④各種大会・講習における少子化に関する広報活動の積極化。⑤子供や保護者を対象とした剣道教室、シンポジウムの開催。⑥他競技の実践例の情報収集・分析。⑦稽古会等への積極的参加を促進し、活性化をはかる。⑧学校への指導

者の適性配置と外部指導者の積極的活用を要望していく。
以降、少子化対策は基本的にこれらの方針に基づき施策を実施してきたものである。

この会議記録の中で、私が特に注目すべき意見として、『地元中学校の剣道部が廃部になって、子供たちの受け皿が無くなり大変困っている。』（石井）『地域を伸ばすためには、秋剣連主体の事業よりも地域単位で企画した事業へ秋剣連の講師派遣など地域からの盛り上げが有効だ。』（同）との意見があったことを付記しておきたい。

このような当初の課題に臨んで少子化対策委員会では、①剣道募集ボスターの作成・配布。②県連盟ホームページへの県内全剣道場の掲載。③幼年指導者講習会の実施。④剣道体験教室の開催促進。⑤幼年指導奨励賞の新設授与。⑥剣道少子化に対する保護者アンケートの実施。⑦小中学生剣道指導教室の開催などを実施してきた。特に、平成29年度以降は各郡市連盟に剣道未経験の幼少年を対象とした体験教室の開催を働きかけ、継続開催を要請してきた。

〇現状認識

県連盟としては、このような活動を展開してきたわけであるが、剣道人口の減少には歯止めがかかっていない。当初は本県における少子高齢化の影響で剣道人口も減少しているとの樂觀的？な見方も一般にあったが、表1を参照願いたい。本県における小中高生徒数の人口減少は、この10年間で概

ね22～25%で推移してきている。しかし、剣道人口の減少率は約2倍の40%前後で推移していることがわかる。少なくともその差、約20%は少子高齢化以外の理由で減少していることになる。ここに剣道人口減少の本質的問題があるのではないだろうか。恐れずに言えば、残念ながら幼少年における『剣道離れ』と『剣道環境の不備』が根本にあるように思われる。

〇部活動の地域移行

現在直面している大きな課題の一つに中学校における部活動の地域移行の問題がある。これは、少子化による部活動の減少（廃部・部員減少）および教員の働き方改革を

背景とするものであるが、令和4年12月に『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』（スポーツ庁・文化庁）が発出されている。今後、中学校の部活動はこのガイドラインに沿って、段階的にとはいくものの、急速に変化していくものと思われる。（同ガイドラインでは令和5年度から同7年度までを改革推進期間としている。）

これまでは、中学校の部活動は中体連に、高校は高体連にとお任せだったものが、移行後は地域でこれを担うことになる。現時点は、その移行期間に当たり、今

後本県スポーツ界でも具体的な動きが顕著になってくると思われる。具体化する過程の中で、剣道に関して本連盟の果たす役割、地域剣道連盟の役割は大きなものになると想定され、様々な課題がある中ではあるが、これを良い機会としてとらえ、積極的かつ前向きに対応していく必要がある。剣道界では従来より「社会体育指導員」や「授業協力者」として人材の育成に注力してきた。今こそこれを部活動の「外部指導者」または「部活指導員」として活用していく地域ごとの仕組み作りとその周知が望まれる。

（文中敬称略）

表1 剣道人口推移

年度	初段昇段者数(人)	学年別大会参加者数(人)			本県の生徒数推移(人)		
		小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
平成 25年度	328	358	528	284	47,626	26,681	28,271
26年度	261	350	449	298	46,417	25,990	27,508
27年度	247	340	451	280	45,329	25,053	26,857
28年度	276	282	493	258	44,360	24,272	26,057
29年度	260	279	440	225	43,243	23,457	25,314
30年度	221	292	381	232	42,115	22,593	24,437
令和 元年度	200	286	354	242	40,824	22,198	23,602
2年度	184	244	332	中止	39,637	21,750	22,732
3年度	174	中止	336	中止	38,443	21,511	22,014
4年度	193	210	324	170	37,300	21,008	21,649
減少数	△135	△148	△204	△114	△10,326	△5,673	△7,263
減少率	△41.2%	△41.3%	△38.6%	△40.1%	△21.7%	△21.3%	△25.7%

(1)減少数、減少率は平成25年度と令和4年度との比較(10年間比較)

(2)学年別大会参加者数の小学生数は5・6年生の合計。中学生・高校生は1・2年生の合計。

道場紹介と少子化への
取り組み

港剣志館 館長

布施 修

道場紹介と少子化への取り組み

港剣志館 館長 布施 修

●師範又は代表者

布施 修

●所在地

北部市民サービスセンター

下新城コミュニティセンター

港北コミュニティセンター

●本道場の歴史

令和5年4月、港剣志館は創立20年の節目を迎えた。

当館は、布施修先生、渡邊諭先生、渡邊良成先生の3名が中心となり創立される。

現在は、布施修先生、後藤喬先生、越後屋光晴先生、石井弘志先生、澤田武先生、長谷川智香先生、田松幸宏先生の7名が中心となり活動しており、数多くの卒館生を輩出している。

●稽古日と時間

第2・4月曜日

午後6時～午後8時

毎週水曜日(第5週は休み)

午後6時～午後8時

毎週木曜日

午後6時～午後8時

毎週土曜日

午後2時～午後4時30分

(第1・3・5)

午後4時～午後6時30分

(第2・4)

●稽古内容・指導要点

剣道を通じて、将来、社会に適応できる人間作りを目指し、剣道の修練はもちろんの事、特に礼儀作法に重きを置いて指導している。

●本道場の特色

港剣志館は「積極果敢」の字を座右の銘としている。何もチャレンジしない人は失敗をすることはないが、夢や成功を掴むこともない。子供たちが剣道を通じて何事にも「積極果敢」にチャレンジして、失敗しても頑張り続けることができる環境作りを大切にしている。

●少子化への取り組み

館員が少ないのは少子化だから仕方がないみたいな風潮だが、港剣志館は、創立10年以降から現在までの館員数が20名から30名を維持している。当館としては特別なPRをしていないので参考になるかは分からないが、以下のことを実践している。

1 館員の弟や妹などに積極的に

声をかける。

2 保護者を通して知り合いの方などに積極的に声をかけてもらう。

3 指導者が過去に剣道をやっていた子供がにいる保護者に積極的に声をかける。

4 入館するしないを別にして、剣道に興味を示した方を稽古場所に来ていただき、剣道を実際に見てもらおう。

●指導者数

7名

●(スポーツ少年団認定員登録指導者)

●門弟数

20名

●最近3カ年の主な試合戦績

・第66回 秋田県少年剣道大会

高学年の部 優勝

低学年の部 準優勝

・第55回 全国道場少年剣道大会

出場

・男鹿市・潟上市・南秋田郡剣道連盟創立70周年記念少年剣道大会

高学年の部 優勝

低学年の部 優勝

・第56回 全国道場少年剣道大会

出場

・令和4年度 秋田市スポーツ少年団交流剣道大会 優勝

・第67回 秋田県少年剣道大会

高学年の部 優勝(二連覇)

・第64回 全国選抜少年剣道錬成大会 出場

・第57回 全国道場少年剣道大会

出場

・令和5年度 秋田市スポーツ少年団交流剣道大会 優勝

・第39回 岩谷杯争奪少年剣道

錬成大会 高学年の部 優勝

・第57回 荘内剣道錬成大会

優勝 準優勝

●運営費

二千元/月



道場紹介と少子化への取り組み



出戸剣道スポーツ少年団
代表 加藤 大地

出戸剣道は昭和四十七年に顧問であられる佐々木六郎先生を代表として発足し故土門豊作先生、高橋忠先生と共に地域の子供達への指導を行っていました。発足前は出戸小学校の当時の教頭先生と地元の剣道愛好者で子ども達への剣道の指導を行っていたそうです。

現在指導を行っている加藤と澤田は六郎先生の指導を受けた弟子であり私達の子も指導を受けました。

練習は地域のコミュニティーセンターで六名の団員達と火曜、木曜、金曜の週三日汗を流しています。団員の練習の他にもOBや地域の愛好者達の憩いの場となっています。

少子化の中でも出戸剣道では、団員の大幅な増減はありませんが、取り組んでいることについて少し話させていただきます。母体となっている

出戸小学校の児童は令和五年四月に百九十六名。ここ五年くらいは二百名前後を行ったり来たりしています。出戸小学校に付随している競技が七団体あります。その中でどのようにして剣道を選んでもらいその後中学校へ繋げていくか毎年の課題です。近年の様子を見ると、親が指導者または経験者という子ども達が多いようです。それを考えると、経験者は「剣道の良さや楽しみ方」や「掛かる経費など」も目処がつくので敷居が高くない。」ことなどを地域の子供たちと保護者に伝え理解を深めてもらえば入団へ繋がるのではないかと考え団で年三回体験教室を開いています。体験教室は平成二十四年に秋田県剣道連盟少子化対策委員会で行われた剣道教室の内容を参考に行っています。その他に年一回小学校の代休を使って団員と一緒に地域のこども園に協力してもらい、剣道教室を行っています。風船割りや新聞切りなど、園児たちが楽しそうに竹刀を振って元気よく参加してくれています。地道な活動ですが、体験教室参加から入団を決めてくれた子が主になります。

ここからは、同じ中学校区の追分剣道さんと天王南中学校さんとの協力体制についてです。中学校までなるべくスムーズに継続してもらうために追分剣道さんの指導者と共に九年計画（義務教育期間）として活動しています。中学校に専門指導員がいないことが何年も続いていました。しかしながら剣道に対して勉強熱心な顧問が付いてくれたこともあり協力して地域のスポ少指導者達で指導をしています。そのおかげで保護者からは中学生になっても見てもらえるという安心感を抱いて貰えるようになりました。剣道をするのは子ども達ですが、別の団同士が一緒になることで親同士の隔たりというものが大きくあったのも事実です。その解消も兼ねて小中の合同練習を定期的に行い、納涼会や忘年会などイベントも合同で開催するようにしてからは中学校への移行も親子揃ってスムーズになりました。協力体制を取ることで、団員の少ない時も合同練習などお互いの練習をカバー出来ています。極端に少ない人数でも合併せずに残すことによって母体の小学校があることで



持ち直すこともできています。小学校学区で活動できるというのは保護者にとっては魅力的だそうです。潟上市は各小学校に剣道スポ少があります。少子化に悩まされても維持できているのはそのおかげかもしれません。剣道会の裾野を維持するためには窓口は多い方が良いでしょう。と考えています。

まだまだ取り組んでいかないといいけない課題もありますが、少しでも秋田県の剣道人口を増やすために貢献できればと思います。

居合道への今後の取り組み

居合道 範士
常務理事 石田 純士

秋田県剣道連盟では、若者の剣道人口の減少に対応するため少子化対策等について取り組んでいます。居合道においても、特に若い年代の居合道人人口が減少しているため、早急に対策を講じなければなりません。この現象は、単に人口が減少しているというだけではなく、人気のスポーツはむしろ増加しております。この様な課題に対し、今後如何に若い年代を中心に、居合道に興味をもつ情報を発信し、取り組んで貰えるかについて考えてみました。

これまでの情報発信は、剣道大会での居合道演武、ポスター掲示や大会等の新聞への掲載、WEBページでの稽古場所掲載を広報してもらっています。しかし、若い年代の情報収集は、主にスマートフォンでのSNSや動画投稿サービスを利用しているといったデータがあります。そのため情報を発信する側としては居合道大会や講習会、新たに刀剣展示会とコラボした居合道体験等を企画するなど、従来の発

信に加え、これまで以上に動画や新企画での情報発信を行うことが求められていると思います。

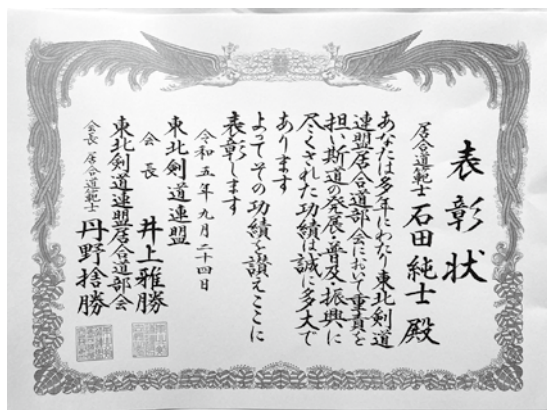
また、厚生労働省は「人生100年時代構想会議」の中で、幼児教育から小・中・高等学校教育、大学教育、更には社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる学習が重要であると示しています。それを実現するには、何よりも健康が第一です。そのためには、適度な運動で体を動かし汗を流すことが必要だと思います。その運動を日本古来の伝統文化である「居合道」で行うことは、呼吸の仕方を変えながら下半身を安定させ上半身を自由に動かす全身運動となり、「集中力」と「体の軸の安定性」を鍛えることができるのです。

居合道は、対戦型ではなく演武なので、一人でも取り組むことができます。また、居合道で体を動かすことは

有酸素運動でありストレス解消にも役立ちます。更に、心を静め己と向き合う居合は、無理なく取り組める運動でもあります。そして、居合道で体と心を整えるとともに、楽しく学び・認め合える仲間を持つ喜びを感じて頂ければと思います。

この様な居合道の良さの情報発信を行いながら、その受け皿として、地域で居合を指導する人材の育成も併せて行う必要があります。そのために、現在県内各地に出向いて行っている巡回稽古会をより充実したものにし、多くの地域に指導者がいる「指導者ネットワーク」の構築を図っていきたいものです。これにより、武道必修化で武道に取り組む学校には指導の出前も可能となります。学生の時に武道の経験をすることは、礼儀作法の教育も含め人間形成の一助になるものと思います。

ただ、これらの課題への対応は、私人では解決出来きませんので、今後皆様のご理解ご協力を頂きながら、一歩ずつ前に向かって取り組むを進めて参りたいと思っております。

第119回 全日本剣道演武大会 12507
令和5年5月2日～5日 武徳殿

第51回東北居合道大会で石田純士先生に感謝状が授与されました。



全剣連より大原哲雄先生に九十歳になる七段以上の先生に記念品を贈る事業で記念品が贈られました。

居合道

称号・段位・表彰・大会結果

【令和5年度各受賞者と六段以上合格者】

令和5年2月18日(長野県)	剣道七段	敬称略
令和5年5月3日(京都府)	居合道 範士	岩井 学
令和5年5月6日(京都府)	居合道 範士	石田 純士
令和5年5月6日(京都府)	居合道 範士	赤坂 朋美
令和5年5月6日(京都府)	居合道 範士	原田 智徳
令和5年5月13日(愛知県)	剣道 範士	那須 正人
令和5年7月21日(栃木県)	居合道六段	越高ひとみ
令和5年8月5日(新潟県)	剣道七段	秋本かおり
令和5年8月6日(新潟県)	剣道六段	沼澤 康之
令和5年8月6日(新潟県)	剣道六段	土田 圭助
令和5年8月6日(新潟県)	剣道六段	岡本 泰輔
令和5年8月6日(新潟県)	剣道六段	徳山 淳
令和5年8月6日(新潟県)	剣道六段	石川 維範
令和5年8月6日(新潟県)	剣道六段	阿部 祐哉
令和5年11月12日(愛知県)	剣道六段	畠山 雄
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	三浦 裕也
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	齋藤 拓実
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	鎌田 武彦
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	大阪 英夫
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	保坂 肇
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	保坂 亮輔
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	草薨 大心
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	今野 応俊
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	池田 大助
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	船越 俊幸
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	佐々木圭子
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	本田 邦俊
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	工藤 勇樹
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	田山 恵子
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	佐藤 邦男
令和5年11月15日(東京都)	剣道六段	戸田 愷章

【秋田県剣道連盟 幼少年指導奨励賞】

令和5年9月2日
小原光晴(湯沢東正剣会)
大高賢也(能代第四スポーツ少年団)

【全日本剣道連盟から90歳祝意表彰】

令和5年9月18日
大原 哲雄

【全日本剣道連盟】

令和5年11月3日
有効賞 大高 尚士

【全日本剣道連盟 少年剣道教育奨励賞】

尾崎剣道スポーツ少年団
鶴舞剣道スポーツ少年団
雄信館内山道場

令和5年3月26日(春日井市)
第32回全国高等学校剣道選抜大会
(男子)

明桜高校 0-1 東海大浦安高校
(女子)

秋田商業高校 0-2 東海大浦安高校
(女子)

令和5年3月29日(県立武道館)
第50回記念魁星旗争奪全国高校剣道大会
第37回魁星旗争奪全国高校女子剣道大会
女子ベスト16 秋田商業高校
優秀選手 及川日菜子(秋商)

令和5年4月16日(名古屋)
第21回全日本選抜剣道八段優勝大会
一回戦 湯澤 寛一 反 愛甲和彦

令和5年4月29日(大阪府)
全日本都道府県対抗剣道優勝大会
一回戦 宮崎 2-1 秋田

令和5年4月29日(県立武道館)
第62回秋田県剣道段別選手権大会
男子初段の部
優勝 三浦 歩(秋田北中)

令和5年11月16日(東京都)
剣道七段
岩井川杏子
佐藤 良子

2位 鎌田 昊(秋田北中)
3位 齊藤 京介(秋田北中)
女子初段の部
優勝 川井 蓮乃(土崎中)
2位 宇佐見百花(土崎中)
3位 山田 芽依(勝平中)

男子二段の部
優勝 金谷 純成(秋田高)
2位 高山 海斗(明桜高)
3位 佐藤 羽琉(秋田南高)

女子二段の部
優勝 瀧澤 史歩(秋田北高)
2位 山形 安菜(秋田南高)
3位 横山 織音(秋田北高)

男子三段の部
優勝 小野寺平良(秋田南高)
2位 畠山 康汰(県警機動隊)
3位 保泉 颯(秋田南高)

女子三段の部
優勝 及川日菜子(秋田南高)
2位 高橋 秋羽(秋田南高)
3位 菅原 陽菜(秋田南高)

男子四・五段の部
優勝 国安 和葉(県警機動隊)
2位 保坂 亮輔(AKT秋田テレビ)
3位 岩谷 一暢(県警機動隊)

女子四段の部
優勝 岡本 美友(日赤看護大)
2位 阿部 優季(秋田新電元)
2位 渡邊 美穂(秋田県庁)

女子五段の部
優勝 渡邊 柚(秋田県庁)
2位 田宮美知子(新潟運輸)

男子六段の部
優勝 廣谷 文利(県警機動隊)
2位 伊藤 智博(県警機動隊)
3位 金澤 英明(由利本荘消防)

女子六段の部
優勝 佐藤 賢人(県警機動隊)
2位 加藤 由佳(秋田北高教諭)

2位 岩井川杏子(湯沢北中教諭)
3位 金 杏奈(大館市役所)
男子七段の部
優勝 高橋 伸友(秋田南高教諭)
2位 鷲谷 和(聴覚支援学校教諭)
3位 目黒 大祐(秋田高教諭)

高年齢者の部
B組(60歳以上70歳未満六段以上)
優勝 山部 敏行(大曲仙北)
2位 佐藤 邦男(神武館)
3位 小林 俊夫(にかほ市)

C組(70歳以上五段以下)
優勝 齊藤 信行(日曜会)
2位 田中 栄(高齡剣友会)
優勝 滝田 毅(日曜会)
2位 鈴木 吉夫(秋田市)

D組(70歳以上六段以上)
優勝 滝田 毅(日曜会)
2位 鈴木 吉夫(秋田市)

令和5年4月29日(県立武道館)
第65回全国教職員剣道大会秋田県予選会
女子の部
優勝 加藤 由佳(秋田北高教諭)
2位 岩井川杏子(湯沢北中教諭)

幼・小・中学校の部
優勝 鷲谷 和(聴覚支援学校)
2位 石井 知徳(大住小教諭)

高校・高専・大学・教委の部
優勝 山崎 洵(新屋高教諭)
2位 佐藤 広将(能代高教諭)
3位 佐々木祐輔(湯沢翔北高教諭)

副将の部
優勝 高橋 伸友(秋田南高教諭)
2位 杉山 喜幸(秋田西高教諭)

大将の部
優勝 伊藤 秀樹(雄勝中教諭)
2位 村上 健(西目高教諭)

令和5年5月27日(県立武道館)
第69回秋田県高等学校総合体育大会
男子団体
優勝 明桜高校
2位 秋田商業高校
3位 湯沢翔北横手高校

令和5年6月10日(県立武道館) 第69回第74回県民体育大会剣道競技 少年女子の部	女子団体	優勝 秋田商業高校	
	2位	秋田北高校	
	3位	横手高校、秋田南高校	
	男子個人	優勝 小松 凜(明桜高校)	
	2位	溝淵 力也(秋田商業高校)	
	3位	土田 剛士(明桜高校)	
	3位	保泉 颯(秋田商業高校)	
	女子個人	優勝 宇佐見千紘(秋田南高校)	
	2位	高橋 秋羽(秋田商業高校)	
	3位	菅原 陽菜(秋田南高校)	
令和5年6月24日(秋田県立武道館) 第69回東北高等学校剣道選手権大会 第55回東北高等学校女子選手権剣道大会	3位	瀧澤 史歩(秋田北高校)	
	優勝 菅原 陽菜(秋田南)		
	2位	宇佐見千紘(秋田南)	
	3位	高橋 秋羽(秋田南)	
	3位	及川日菜子(秋田商)	
	少年男子の部	優勝 湊 歩樹(明桜)	
	2位	中野 陽太(秋田)	
	3位	溝淵 力也(秋田商)	
	3位	保泉 颯(秋田商)	
	成年女子	優勝 山田 夏(筑波大)	
令和5年7月2日(県立武道館) 第62回 東北・北海道対抗剣道大会	2位	佐藤 美乃(中央大)	
	3位	渡邊 柚(秋田県庁)	
	3位	小野 萌子(山形大)	
	成年女子	優勝 加藤 由佳(秋田北高教)	
	2位	岩井川杏子(湯沢北中教)	
	成年女子	優勝 須田恵美子(俳ジャエツトカラー)	
	2位	田宮美知子(新潟運輸)	
	3位	浅野 優子(俳マツモト)	
	3位	山脇 清子(ヤマワキ建設)	
	成年男子	優勝 先鋒	
令和5年7月22日(県立武道館) 令和5年7月22日(県立武道館) 第71回全日本剣道選手権大会秋田県予選 第62回全日本女子剣道選手権大会秋田県予選	優勝 高橋京太郎(法政大)		
	2位	小野 洋介(中央大)	
	3位	畠山 康汰(秋田県警機動隊)	
	3位	貝塚 光(秋田県警機動隊)	
	成年男子	優勝 次鋒	
	優勝 国安 和葉(秋田県警機動隊)		
	2位	福田 優介(秋田刑務所)	
	3位	桧山 大晟(秋田北鷹高教)	
	3位	小野 賢也(秋田県警機動隊)	
	成年男子	優勝 中堅	
令和5年7月8日(県立武道館) 令和5年7月8日(県立武道館) 第72回秋田県中学校総合体育大会剣道大会	優勝 畠山 雄(大館桂桜高教)		
	2位	廣谷 文利(秋田県警機動隊)	
	3位	金森 康臣(秋田南高教)	
	3位	佐々木祐輔(湯沢翔北高教)	
	成年男子	優勝 副将	
	優勝 山田 薫(秋田県警察)		
	2位	菅原 勇一(秋田市消防本部)	
	3位	高橋 伸友(秋田商高教)	
	3位	杉山 喜幸(秋田西高教)	
	成年男子	優勝 大将	
令和5年7月9日(日本武道館) 令和5年7月9日(日本武道館) 第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会	優勝 辻 文彦(秋田工高教)		
	2位	伊藤 秀樹(雄勝中教)	
	3位	小松 紀久(北秋田警察署)	
	3位	佐藤 信明(さとう保険PS)	
	令和5年6月24日(秋田県立武道館) 第69回東北高等学校剣道選手権大会 第55回東北高等学校女子選手権剣道大会	女子団体 準決勝	
	秋田商 1-0 秋田南	女子団体 決勝	
	秋田商 1-2 白河(福島)	2位 秋田商業	
	2位 秋田南	3位 秋田南	
	女子個人	優勝 高橋 秋羽(秋田商)	
	男子団体 準決勝	明桜 1-代表戦-1 盛岡南(岩手)	
令和5年7月22日(県立武道館) 令和5年7月22日(県立武道館) 第71回全日本剣道選手権大会秋田県予選 第62回全日本女子剣道選手権大会秋田県予選	男子団体 決勝	聖光学園(福島) 2-本数-2 明桜	
	2位 明桜	男子個人	優勝 溝淵 力也(秋田商)
	3位 保泉	3位 保泉 颯(秋田商)	
	令和5年7月22日(県立武道館) 令和5年7月22日(県立武道館) 第71回全日本剣道選手権大会秋田県予選 第62回全日本女子剣道選手権大会秋田県予選	女子団体戦	北海道軍 5-0 東北軍
	3将 吉田佳世(札幌南)コ-加藤由佳(秋田)	5将 今野結芽(札幌南)コ-引き分け-渡邊 柚(秋田)	男子団体戦
	北海道軍 15-12 東北軍	28将 花房克樹(天塩)コ-メ	17将 吉岡拓人(全十勝)ド-伊藤智博(秋田)
	14将 鈴木慎之介(網走)メ-廣谷文利(秋田)	6将 関口勇次(札幌東)メ-高橋伸友(秋田)	
	大将 栄花英幸(札幌東)メ-湯澤 寛(秋田)	優秀選手賞に秋田県の高橋伸友選手が選ばれました。	
	令和5年7月9日(日本武道館) 令和5年7月9日(日本武道館) 第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会	一回戦 秋田 2-1 山口	二回戦 茨木 3-1 秋田
	令和5年7月8日(県立武道館) 令和5年7月8日(県立武道館) 第72回秋田県中学校総合体育大会剣道大会	女子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中
令和5年8月3日(よつ葉アリーナ十勝) 令和5年8月3日(よつ葉アリーナ十勝) 第70回全国高等学校剣道大会	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
	男子団体 決勝	土崎中 2-1 勝平中	
令和5年8月1日(県立武道館) 令和5年8月1日(県立武道館) 第47回東北中学剣道大会	女子個人	優勝 三浦 歩(秋田北中)	
	2位	小野 翔(角館中)コ-延ド	
	決勝 小野 翔(角館中)コ-延ド	三浦 歩(秋田北中)	
	令和5年8月3日(よつ葉アリーナ十勝) 令和5年8月3日(よつ葉アリーナ十勝) 第70回全国高等学校剣道大会	予選リーグ 男子の部 団体	明桜高校 2-1 横浜高校(神奈川)
	明桜高校 2(本)-2 札幌日大高校(北海道)	決勝トーナメント	一回戦
	明桜高校(秋田) 2-0	聖光学院(福島)	準々決勝
	明桜高校(秋田) 0-2	福岡第一高校(福岡)	予選リーグ 女子の部 団体
	秋田商業(秋田) 1-0	草津東高校(滋賀)	秋田商業(秋田) 0-1
	秋田商業(秋田) 0-1	高川学園高校(滋賀)	

令和5年8月7日(日本武道館)
令和5年度全国高等学校定時制通信制体育大会
第54回剣道大会
男子個人 決勝
最上羽咲(横手)―コ

準優勝 最上羽咲
中山敬心(佐世保工業)

令和5年8月18日(愛媛県武道館)
第53回全国中学校剣道大会
男子団体

丸亀東中(香川) 2―本数―2(勝)
秋田北中(秋田) 1―1
松代中(長野)

男子決勝トーナメント
安佐中(広島) 1―0 秋田北中
(二回戦敗退)

女子団体
東予東中(愛媛) 1(勝)―本数―1
土崎中(秋田)
松江二中(島根) 1(勝)―本数―1
土崎中(秋田)
予選リーグ敗退

令和5年8月19日(岩手県)
第50回東北総合体育大会剣道競技
少年男子団体 優勝 4勝1敗

第一試合 秋田 0―0(代決) 宮城

第二試合 秋田 1―0 青森

第三試合 秋田 3―0 岩手

第四試合 秋田 2―0 福島

第五試合 秋田 2―0 山形

少年女子団体 準優勝 4勝1敗

第一試合 秋田 3―0 山形

第二試合 秋田 1―0 福島

第三試合 秋田 3―0 宮城

第四試合 秋田 3―0 岩手

第五試合 秋田 1―2 青森

成年男子団体 優勝 3戦全勝

第一試合 秋田 1―0 青森

第二試合 秋田 4―1 岩手

第三試合 秋田 2―1 宮城

成年女子団体 準優勝 3勝2敗

第一試合 秋田 1―0 山形

第四試合 秋田 2―0 福島
第五試合 秋田 0―1 青森
総合順位1位獲得。10月7日開催『かこしま国民体育大会』出場。

令和5年9月2日(県立武道館)
第68回秋田県少年剣道大会
低学年の部 団体決勝

修武館A 2―0 雄信館内山道場A

優勝 修武館A

2位 雄信館内山道場 A

3位 桂城少年剣友会

3位 大館剣修会

低学年の部優秀選手

鷲谷 魁(修武館A)

杉山 輝光(雄信館内山道場A)

岡部 航大(桂城少年剣友会)

大浦 一馬(大館剣修会)

茂木 楓翔(有武館矢島道場)

柏谷和結子(東昇剣金足道場A)

古室あおい(勝平剣道スポ少)

田中 晴太(楓凜館鹿角道場A)

高学年の部 団体決勝

勝平剣道スポーツ少年団 4―1

優勝 勝平剣道スポーツ少年団

2位 雄信館内山道場 A

3位 楓凜館鹿角道場

3位 雄信館内山道場 A

高学年の部優秀選手

原田 彩未(勝平剣道スポ少)

秋田県 3―1 三重県
決勝トーナメント
秋田県 1―2 和歌山県
選手名(先)原田彩未、(次)児玉柑奈、
(中)三浦 咲、(副)兎沢真里亜、
(大)杉山大心

中学生の部 予選リーグ
秋田県 4―1 長野県

秋田県 0―2 愛媛県

選手名(先)山田 芽衣、(次)宇佐見百花、
(中)齊藤京介、(副)三浦 歩、
(大)小野 翔

令和5年9月24日(沖縄県立武道館)
第69回全日本東西対抗剣道大会
六将

秋田 湯澤 寛―引き分け― 大阪 愛甲和彦

令和5年9月24日(岩沼市総合体育館)
第51回東北居合道大会
四段の部

村木 孝一(秋田) 1―2 沓沢 慎哉(山形)

村木 孝一(秋田) 1―2 倉持しづれ(福島)

保坂 正(秋田) 0―3 葛巻 盛朗(青森)

保坂 正(秋田) 0―3 軽部 修(山形)

五段の部

村上 宙思(秋田) 0―3 渡邊 王志(宮城)

村上 宙思(秋田) 3―0 三浦 修一(青森)

小幡 雄平(秋田) 0―3 菊池 雅樹(岩手)

小幡 雄平(秋田) 0―3 松村 明昇(青森)

六段の部

本田 邦俊(秋田) 0―3 日向 祐昭(宮城)

本田 邦俊(秋田) 3―0 逸見 勉(青森)

黒澤 直樹(秋田) 2―1 功(青森)

黒澤 直樹(秋田) 1―2 佐藤 晋作(福島)
七段の部
戸田 愷章(秋田) 0―3 中島 伸樹(福島)

戸田 愷章(秋田) 2―1 柴崎喜久夫(山形)

内田 幹夫(秋田) 1―2 水野 大(山形)

内田 幹夫(秋田) 1―2 三浦由紀夫(岩手)

秋田県勢全員予選リーグ敗退

令和5年10月8日(10日)
第75回国民体育大会(かこしま国民体育大会)
剣道競技(霧島市校園アリーナ)
少年女子
秋田 1―2 長崎 一回戦敗退

少年男子
秋田 1―本数―1 島根 一回戦敗退

成年女子
秋田 0―3 埼玉 一回戦敗退

成年男子
秋田 2―3 京都 一回戦敗退

令和5年10月21日(東京武道館)
第58回全日本居合道大会
五段の部

一回戦
小幡雄平(秋田) 3―0 布村 達(愛媛)

二回戦
小幡雄平(秋田) 0―3 長久保涼(山梨)

六段の部
一回戦
黒澤直樹(秋田) 0―3 竹藪直人(兵庫)

七段の部
二回戦
戸田愷章(秋田) 0―3 金山富子(宮崎)

令和5年10月24日(日本武道館)
第67回 全国警察剣道大会
第三部

一次リーグ
秋田県警 3―1 山梨県警

秋田県警 1―引分―1 島根県警

二次リーグ
佐賀県警 5―0 秋田県警

秋田県警 2―引分―2 埼玉県警
二次リーグ敗退

令和5年10月28日(県立武道館)
第60回秋田県社会人剣道大会

部門 一部

優勝 秋高剣友会

二位 龍心会A

三位 泰智真英会

部門 二部

優勝 秋田県庁

二位 泰智真英会

三位 Y L K C

令和5年10月28日～31日(愛媛県武道館)
第35回全国健康福祉祭えひめ大会

ねりんピック

予選リーグ

第一試合目
岐阜県 2―0 秋田県

第二試合目

香川県 2―引分―2 秋田県
予選リーグ 敗退

令和5年11月3日(日本武道館)
第71回全日本剣道選手権大会

一回戦

伊藤智博(秋田)―メ 棕梨昂竜(東京)
一回戦敗退

令和5年11月11日(県立武道館)
第35回秋田県中学校秋季剣道大会

女子団体 準決勝

湯沢北中 3―1 秋田北中

御野場中 1―2 土崎中

決勝

湯沢北中 1―代決―1 土崎中

優勝 土崎中

男子団体 準決勝

土崎中 2―0 秋田北中

御野場中 5―0 仙北中

決勝

土崎中 1―3 御野場中

優勝 御野場中

令和5年11月18日～19日(県立武道館)
秋田県高等学校新人剣道大会

女子団体 準決勝

秋田北 2―0 横手高

秋田商 4―1 能代高

決勝

秋田商 2―代決―2 秋田北

優勝 秋田商業高校

女子個人 準決勝

瀧澤 史歩(秋田北)―メ―延長―

寺田 和心(秋田高) コー

児玉 真生(秋田北)

決勝

瀧澤 史歩(秋田北) コー延長―

寺田 和心(秋田高)

優勝 瀧澤 史歩

男子団体 準決勝

明桜 4―0 本荘高

秋田高 0―代決―0 湯沢翔北

決勝

明桜 3―0 秋田高

優勝 明桜高校

男子個人 準決勝

秋葉 蒼(明桜) ドー延長―

高山 海斗(明桜) ドー延長―

小番 暖太(明桜)

決勝

高山 海斗(明桜)―メ―

秋葉 蒼(明桜)

優勝 高山 海斗

令和5年11月23日(県立武道館)
第37回秋田県都市対抗剣道大会

高齢者の部 3位決定戦

大館北秋剣道連盟 3―0

男鹿・潟上・南秋剣道連盟

決勝

湯沢雄勝剣道連盟 1―0

秋田市剣道連盟

優勝 湯沢雄勝剣道連盟

女子の部 3位決定戦

大曲仙北剣道連盟 2―0

大館北秋剣道連盟

決勝

男鹿・潟上・南秋剣道連盟

1―0 湯沢雄勝剣道連盟

優勝 男鹿・潟上・南秋剣道連盟

男子の部 3位決定戦

大曲仙北剣道連盟 3―1

大館北秋剣道連盟

決勝

秋田市剣道連盟 4―1

男鹿・潟上・南秋剣道連盟

優勝 秋田市剣道連盟

総合優勝 男鹿・潟上・南秋剣道連盟

総合2位 秋田市剣道連盟

総合3位 湯沢雄勝剣道連盟

高齢者の部

最優秀選手 渡部 良浩(湯沢雄勝)

優秀選手

宮越 信義(大館北秋)

田村 信悦(能代山本)

伊藤 惣作(男鹿潟上南秋田)

田原 徹(秋田市)

高野 均(由利本荘に)

山部 敏行(大曲仙北)

藤田 豊貴(横手市)

女子の部

最優秀選手 渡部 ひかり(男鹿潟上・南秋剣道連盟)

優秀選手

菊地 咲希(大館北秋)

畠山 奈那(秋田市)

岡本 美友(由利本荘に)

畠山 若那(大曲仙北)

内藤志桜里(横手市)

佐藤歩未佳(湯沢雄勝)

男子の部

最優秀選手 廣谷 文利(秋田市)

優秀選手

松山 大晟(大館北秋)

佐藤 広将(男鹿潟上南秋田)

畠山 康汰(男鹿潟上南秋田)

佐藤 侃哉(由利本荘に)

草薨 大心(大曲仙北)

石井 孝幸(横手市)

石黒 孝明(湯沢雄勝)

令和5年12月2日(県立武道館)
第26回秋田県小学生学年別剣道大会

第28回秋田県中学生学年別剣道大会

小4年生女子 準決勝

小室あおい(勝平) コー延―

小番 天寧(有武館矢島)

大西芽生花(有武館渡部)―メ

柏谷和結子(東昇剣金足)

決勝

小室あおい(勝平)―延―メ

柏谷和結子(東昇剣金足)

優勝 柏谷和結子

敢闘賞 小柳 萌琳(八郎潟)

小田嶋紗代(楓凜館)

長谷川稀玲(雄信館)

菊地 朱理(飯田川)

小4年生男子 準決勝

驚谷 魁(修武館)―メ―

三浦 悠人(雄信館)

廣谷 綾斗(雄信館)

驚谷 綾斗(雄信館)―メ―

児玉 工(勝平)

優勝 驚谷 魁(修武館)―メ―

敢闘賞 廣谷 綾斗

岩澤 祐汰(雄信館)

松岡 冬真(楓凜館)

茂木 楓翔(有武館矢島)

田中 晴太(楓凜館)

小5年生女子 準決勝

植田 彩夏(有部館矢島) コー延―

渡邊 桜心(港剣志館)

伊藤 結舞(東昇剣金足)―メ

加賀屋 雅(港剣志館)

決勝

植田 彩夏(有部館矢島)―メ―

加賀谷 雅(港剣志館)

優勝 植田 彩夏

敢闘賞 佐々木心陽(大曲右武館)

内藤 綾乃(東昇剣)

田村梨々花(洗心館)

佐藤 莉乃(有武館矢島)

小5年生男子 準決勝

浅石 直尊(楓凜館)―メ―

戸松 瑞貴(雄信館)

松倉 義龍(湯沢東正剣会)―メ―

石黒 瑛士(勝平)

決 勝 戸松 瑞貴(雄信館) メー 優 勝 戸松 義龍(湯沢東正剣会) 敢闘賞 吉川 結斗(東昇剣) 土田 希虎(勝平) 保科 大和(雄信館) 高橋順之介(湯沢東正剣会) 小6年生女子 準決勝 原田 彩未(勝平) ー延ーメ 三浦 咲(東昇剣金足) ー延ード 決 勝 兎沢真里亜(楓凜館) メー 優 勝 兎沢真里亜 敢闘賞 松橋 穂果(港剣志館) 布施 彩心(秋水館) 大里 美祐(楓凜館) 根田あかり(奥檜館) 小6年生男子 準決勝 佐藤 唯人(向雲剣錬会) ー延ーメ 柳川 津世(向雲剣錬会) メー延ー 決 勝 佐々木聖太(港剣志館) ーメ 優 勝 柳川 津世 敢闘賞 中野 龍真(修武館) 鈴木 一颯(奥檜館) 渡辺 瑛太(有隣館角館) 鷺谷 舜(修武館) 中1年生女子 準決勝 阿部 桜(楓凜館) メー延ー 細川 莉子(二ツ井) コー 加藤 はな(秋大付) 決 勝 阿部 桜(楓凜館) メー 優 勝 阿部 桜 敢闘賞 佐藤 彩星(土崎) 佐藤 かのん(南高等学校) 佐藤 柑菜(矢島) 石黒 莉央(勝平)	中1年生男子 準決勝 柳田瑚太郎(南高等学校) メー延ー 三浦唯舞姫(矢島) ー延ーメ 決 勝 柳田瑚太郎(南高等学校) メー 優 勝 柳田瑚太郎 敢闘賞 辻永 青(秋田西) 菅原 伶太(南高等学校) 村山 徠純(本荘南) 佐々木凜音(協和) 中2年生女子 準決勝 川邊萌々香(城南) メー延ー 驚谷和笑(能代二) ーメコ 決 勝 川邊萌々香(城南) ーコ 優 勝 森本 音彩 敢闘賞 笹木 陽菜(天王南) 宮本 花帆(仁賀保) 小柳 莉暖(八郎湯) 高久 結奈(湯沢北) 中2年生男子 準決勝 村田 慶侍(御野場) ーメ 柏谷円二朗(秋田北) ーメ 決 勝 主斗(楓凜館) メー 優 勝 主斗 敢闘賞 三浦 虎徹(土崎) 児玉 智生(土崎) 佐々木煌太(土崎) 松橋 歩生(土崎) 令和6年1月27日(県立武道館) 第33回全国高等学校選抜剣道大会 秋田県予選会 男子 優 勝 秋田南高校 第2位 明桜高校 第3位 横手高校	第3位 湯沢翔北高校 ※第2代表決定戦 明桜高校3ー0 横手高校 秋田南高校・明桜高校 全国選抜大会出場 女子 優 勝 秋田商業高校 第2位 秋田北高校 第3位 能代高校 第3位 横手高校 秋田商業高校 全国選抜大会出場 第72回全日本都道府県対抗剣道優勝大会 秋田県予選 先鋒の部 高山 海斗(明桜高校) ※全県高校新人個人優勝 次鋒の部 優勝 東海林健太(中央大) 五将の部 優勝 加藤峻一郎(JR東日本) 中堅の部 優勝 松山 大晟(秋田北鷹高校) 三将の部 優勝 小野 賢也(機動隊) 副将の部 優勝 米屋 千里(秋田銀行) 大将の部 優勝 東海林 聡(秋田刑務所) ※以上秋田県代表選手 第16回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会 秋田県予選 先鋒の部 (6月全県高校総体個人優勝者) 次鋒の部 優勝 及川日菜子(秋田商業高校) 五将の部 優勝 渡邊 柚(秋田県庁) 中堅の部 青山 紀子(桐トセキマテリアル) 三将の部 岩井川杏子(湯沢北中教) 副将の部 優勝 加藤 由佳(秋田北高校教) 大将の部 須田恵美子(桐ジェットカラー) ※以上秋田県代表選手 令和6年1月28日(県立武道館) 第28回秋田県高校生学年別剣道大会 高校1年生男子の部 優 勝 佐藤 鷺昂(明桜) 第2位 宇佐美胴乃(秋田) 第3位 田上 朝陽(秋田南) 第3位 佐藤 颯亮(明桜) 敢闘賞 菅原 大智(秋田中央) 佐藤 勇心(秋田商) 石原 悠聖(秋田商) 八木 銀太(秋田南) ○学校対抗の部 優 勝 明桜	第2位 秋田南 第3位 秋田 高校2年生男子の部 優 勝 高山 海斗(明桜) 第2位 土田 剛士(明桜) 第3位 秋葉 蒼(明桜) 第3位 宮本 陽向(本荘) 敢闘賞 高村 啓介(湯沢翔北) 小番 暖太(明桜) 岩本 晃弥(秋田南) 工藤 青(由利工) ○学校対抗の部 優 勝 明桜 第2位 本荘 第3位 湯沢翔北 高校1年生女子の部 優 勝 三浦帆乃夏(秋田商) 第2位 児玉 真生(秋田北) 第3位 佐藤 星奈(湯沢) 第3位 寺田 和心(秋田) 敢闘賞 須田 華子(秋田北) 横山 織音(秋田北) 山形 安菜(秋田商) 西川 桜(秋田西) ○学校対抗の部 優 勝 秋田北 第2位 秋田商業 第3位 湯沢・秋田 高校2年生女子の部 優 勝 畠山 桜(秋田北) 第2位 瀧澤 史歩(秋田北) 第3位 大竹 璃胡(秋田北) 第3位 佐々木奈菜子(秋田) 敢闘賞 布施 虹南(秋田南) 小柳 結芽(能代) 畠山 実優(秋田北) 工藤 栞(秋田南) ○学校対抗の部 優 勝 秋田北 第2位 秋田南 第3位 秋田
---	---	--	--

石田彌之助
先生の思い出

高橋 英夫

私が初めて竹刀を握ったのは、戦後剣道が復興して間もない昭和32年増田尚志会で剣道に出会ったのが始まりである。

丁度その頃は、活動が中断されていた尚志会を再建しようと会員を募っていた時期でもあり、多いときで50人位の子供達が月、水、金曜日の早朝稽古に参加していたと記憶している。

指導の先生方は家業を持つ忙しい身でありながら、素振りや前進、後退と基本を繰り返し熱心に指導してくださった。

その中で中心的存在としてご指導くださったのが石田彌之助先生であつた。

先生は旧家の蔵に眠っている防具を集めてきては順番に着けさせてくださった。

使い古しの竹胴であつたが初めて身につけたときは嬉しく思ったものである。

「ホレ！もう一本」「まだまだ！もう一本」白装束に茶胴の彌之助先生に最後の気力をふり絞って「メーン」と打ち込むと、ようやく「オッ！まいった。上手になったな」と抱きしめてくれた。今では懐かしい思い出である。

土用稽古や寒稽古など、暑さ寒さの中を頑張り通したこと、とりわけ納め会でお母さん達が作ってくれるおしる粉は楽しみのひとつであつた。

戦後のみんなが貧しい時代、地域ぐ

るみて熱心に子育てをしてくれたことを今も感謝している。

彌之助先生は横手中学で若林信治先生（京都武専教授、秋田県警剣道師範等を歴任）の2年先輩であり、若林先生の中学時代のエピソードや、ご自分で収集された剣道関係の記事のスクラップブック、写真等を見せては、いろいろと楽しいお話を聞かせてくださった。

また先生は、尚志会出身の鈴木哲次先生についてもよく話してくださいました。鈴木先生は昭和6年の早稲田大学第1次アメリカ遠征に参加、日米有段者優勝大会で個人優勝している。また、昭和15年「奉祝紀元2600年記念」天覧試合に秋田県代表選手として出場、指定選士の若林先生と共に、横手中学出身の二剣士が出場したことは、当時大きな話題になったと話してくださいました。

現在、鈴木家の蔵は哲次先生の資料室として整備されている。

彌之助先生がお亡くなりになったのは、私が教職についたばかりの昭和46年、年が改まった寒い冬のことであつた。



昭和32年第3回全県少年剣道大会優勝記念
後列右から2人目が石田先生

彌之助先生は事が起きても決して動ずることなく、いつも泰然としておられた。

私も斯くありたいと願っているが、先生のあの姿勢には遠く及ばない。

「志を高く遠くだけ」と教える育ててくれた尚志会が誕生して130年目を数えた今年、先生の在りし日のことや、その御功績の偉大さを改めて思うこの頃である。

事務局からのお知らせ

●秋剣連事務局の業務環境改善に向けた対策として、令和6年1月より毎週土曜日、日曜日、祝日に加え月曜日も休業日と致します。変更するにあたり、皆様には大変ご不便ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

●例年4月の秋剣連役員会を令和6年度は6月に開催を予定しております。役員の皆様はご承知おきください。新年度の事業計画案、定例稽古会開催予定日等につきましては、随時各郡市事務局に通達し、またホームページを更新いたします。ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

●第51回魁星旗争奪全国高校勝抜剣道大会・第38回魁星旗争奪全国高校女子剣道大会を次の日程で開催致します。
令和6年3月26日（火）～28日（木）
練成会（県立武道館・CANアリーナ）
29日（金）8時30分～開会式
女子1・2回戦、男子1回戦
30日（土）女子3回戦、男子2回戦
31日（日）男女準々決勝～決勝
どなたでも入場できますので、ぜひ県立武道館でご観戦ください。

編集後記

2020年1月に初めて日本で確認された新型コロナウイルス感染症もようやく、2023年5月にインフルエンザと同じ分類となり、それに伴い、シールドの着用でマスクの着用等が任意となり各種大会が普通に開催される様になりました。今年のはじめは、17年ぶりの国体剣道競技全部門出場を果たした事です。

強化部をまとめる委員長、委員、監督、コーチ、選手を支える家族の皆さん、そして選手の皆さん、本当に感動をありがとうございました。尚武秋田がもと全国へ轟く事をお祈り申し上げます。

広報委員会からお知らせ

この度の記事掲載は、剣窓、秋田県剣道連盟ホームページ、魁新聞、試合プログラム等から情報を得て敬称略にて記載しております。万一、誤字、脱字、情報相違等ございましたら、心からお詫び申し上げます。

編集

秋田県剣道連盟 広報委員会
淡路 芳和 芳谷 正人
鹿子澤浩美 辻 文彦
柏木 亮 船越 俊幸
糸井 一保 筒井 洋美
岩船 志保